

緊急人道支援学会 ラウンドテーブルセッション :

国際スタンダードに沿った緊急下における精神保健・心理社会的支援の在り方を考える

- 要旨(400-800 字:企画の背景、主な論点を含めてください。Should include background and main discussion points. 200-300 words.)

災害や紛争等は、身体的、物質的な被害だけではなく、被災者のところにも大きな影響を与える。緊急下における精神保健・心理社会的支援(Mental Health and Psychosocial Support、以下 MHPSS)は、近年国内でも認識が高まり、緊急支援の必須分野として重要性が広まってきている。MHPSS は様々な学術研究や世界各地での実践による知見も多く蓄積されている分野であり、2007 年には機関間常設委員会(Inter-Agency Standing Committee、以下 IASC)によって、“IASC Guidelines on Mental Health and Psychosocial Support in Emergency Settings”(以下、IASC ガイドライン)が発行され、様々な文脈やセクターでの緊急人道支援において、被災者の精神保健・心理社会的ウェルビーイングを守り改善するための、適正な支援活動のスタンダードを示されている。一方、人道支援に携わる日本の MHPSS 実践者間において MHPSS のアプローチや支援効果の測定における課題や学び、各種研究やガイドラインの現場での活用について議論する場は限られている。

本ラウンドテーブルでは、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン(以下 SCJ)がルーマニア、イエメンの緊急人道支援において実施してきた MHPSS の事例、成果を紹介するとともに、IASC が定めている 2021-2030 年における MHPSS におけるリサーチアジェンダに基づき、国際的に使用されている IASC ガイドラインに沿った指標の設定や評価の実施、また実践上の課題や解決策について意見交換を行い、国際スタンダードを活用した MHPSS 実践に向けた建設的な議論につなげたい。

- 発表者の発表内容・略歴、およびファシリテーター、コメンテーターの略歴(Planning Manager, Chair/Moderator, and Presenters and Discussants, if applicable)

森光玲雄(座長):日本人臨床心理士として初めて赤十字の海外 MHPSS 支援事業に従事。東日本大震災を始め、ウクライナ、フィリピン、ネパールなど、国内外の災害・紛争の現場で「心のケア」にあたる。2013 年より国際赤十字・赤新月社連盟心理社会的支援センター(コペンハーゲン)の MHPSS 登録専門家を拝命。日赤災害救護研究所心理社会的支援部門の初代部門長を務め、本分野の普及、支援者育成、調査等に従事している。

奥村絵美(発表者):前職ではパレスチナの MHPSS 事業に従事。2024 年に SCJ に入局し、海外事業部にて MHPSS 副フォーカルを務めるほか、南スーダンやウガンダの子どもの保護事業に従事する。

小山光晶(発表者):2021 年 SCJ に入局。海外事業部における教育・MHPSS フォーカルを務め、中東・南アジア地域の教育事業および国内の MHPSS 案件に従事する。

清水奈々子(発表者)2019年より人道・開発業界に従事。2021年にSCJに入局し、アフガニスタン人道支援やウクライナ危機担当となる。2023年3月から2024年6月までルーマニア駐在員としてウクライナ難民支援事業に従事。

■ セッションの流れ(Plan of the Session)

前半 60分(14時45分～15時45分)で発表者の奥村、小山、清水より、緊急下のMHPSSに関する国内外の潮流やIASCガイドラインの概要、およびSCJがルーマニア、イエメンの緊急人道支援において実施してきたMHPSSの事例、成果などを発表する。

後半 30分(15時45分～16時15分)で、座長の森光氏のファシリテートのもと、発表内容に関する質疑応答、日本のNGOが実施する緊急下におけるMHPSSやIASCガイドラインの活用に関する実施上の課題や解決策も含め今後の展望について参加者と意見交換を行う。

■ その他

特に無し。

(2ページ以内に収めてください。Please keep it within 2 pages)